

水源地域活性化推進会議とは

城原川上流の脊振の地に約 10 年後の完成を目指す「城原川ダム」。地域を洪水から守る大切な施設ですが、その建設に伴い移転を余儀なくされる水没地域の方々や道路の付替え等によって生活環境が大きく変化するダム周辺の方々がいます。これらの状況を踏まえ、ダムの建設をマイナスと捉えず、地域活性化の契機としていくために「神崎市水源地域振興計画」が策定されました。

この振興計画に描かれた活性化のための様々な施策を具体的に実現していくため、行政と市民による推進組織として「水源地域活性化推進会議」を設立します。

活性化推進会議の基本理念

◆それぞれが行ってきた活動を“つなぐ”

高齢化や過疎化の影響もあり、これまで地域のために様々な活動を行ってきた団体の皆さんが、更に新たな取組みを進めていくことは容易ではありません。推進会議は各々がこれまで行ってきた活動を継続しつつ、その活動の輪をつなげることで、お互いを支援し協力しあって持続的な取組みを進めることを基本とします。

◆行政と市民、企業を“つなぐ”

行政と市民や企業、立場はそれぞれ異なりますが、この推進会議の中で顔が繋がって、お互いの知恵を持ち寄る場とすることで、よりよい地域づくりを広く長くつなげていくことができます。

◆上流と下流を“つなぐ”

ダム建設予定地は脊振地区に位置し、影響を受ける範囲は神崎市の北側の地区になりますが、活性化の検討は上流と下流をつなぐ意味で全市を対象に進めます。特に、現在実施されている「水の郷再生市民会議」は、本活性化推進会議とは不可分なものとして考えていきます。

活性化推進会議のルール

◆実現可能なことから早急に取り組む

地域活性化の推進には、マンパワー、財源（資金）、各種の手続きなど様々な障壁が待ち受けており、振興計画に描かれた施策全てをすぐに実現していくことは困難であると考えます。ただ、ダムの完成まで約 10 年、また完成後においても地域活性化は継続していく必要があることから、各団体が、いま実践している活動・施策の深化や新たな取組みなどについて、お互いの知恵を持ち寄って「実現可能なことから早急に取り組む」をモットーに推進していきます。

◆様々な「縦割り」をなくして、縦のノウハウを横につなぐ

「行政の縦割り」という言葉がよく使われます。例えば、同じ場所でも水源地域振興と過疎対策が別々に扱われたりしますが、目指すべきところは同じです。それぞれが縦に深く持っているノウハウを横に繋いでいき、施策を具体的に実現するための取組みを進めていきます。

◆「楽しく」を前提に、参加はできる時だけで構わない

地域活性化に関わる各団体の活動は、特定の人に負担がかかってしまったり、参加ノルマがきびしくなると継続性が低下していくおそれもあります。作業やイベントの後のおしゃべりを楽しみにしながら、それぞれが無理のない形で参加できる仕組みを模索します。